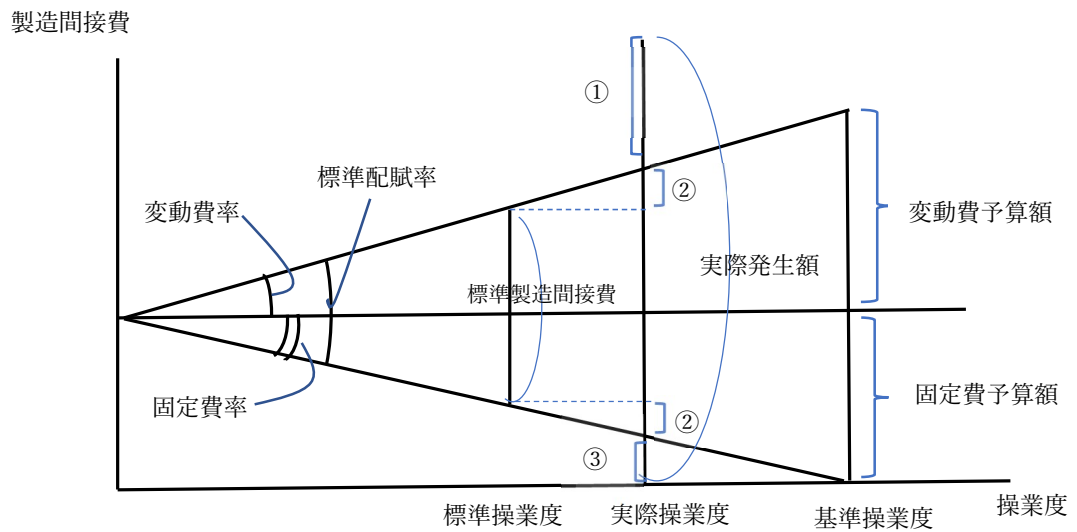


(ウ) 製造間接費差異 (Cの部分)

(i) 公式法変動予算による分析

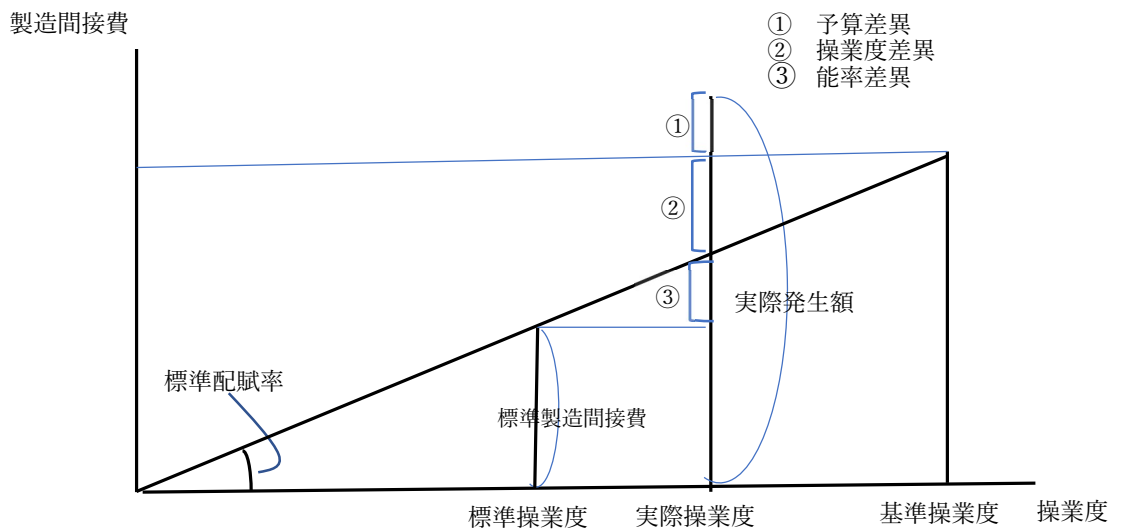
— 製造間接費を変動費と固定費に分けて予算を設定する方法

- ① 予算差異
- ② 能率差異  
(= 変動費能率差異 + 固定費能率差異)
- ③ 操業度差異



(ii) 固定予算による差異分析

— 製造間接費を変動費と固定費に分けずに分析する。



(問題)

次の資料に基づき製造間接費の分析を行い、予算差異、能率差異、操業度差異を求めなさい。また、それぞれ不利差異、有利差異かを示しなさい。

1 標準原価カード

標準原価カード (製品1個あたり)			
標準直接材料費	標準価格	× 標準消費量	
	@400円	× 1.5kg	= 600円
標準直接労務費	標準賃率	× 標準作業時間	
	@900円	× 1時間	= 900円
標準製造間接費	標準配賦率	× 標準作業時間	
	@830円	× 1時間	= 830円
製品1個あたりの標準原価			<u>2,330円</u>

2 生産データ

月初仕掛品 600 (1/3)

当月投入 2,700

月末仕掛品 300 (2/3)

完成品 3,000

3 月間公式法変動予算

変動費率 @340円

固定費予算額 1,715,000円

基準操業度 3,500時間

基準操業度は直接作業時間に準ずるものとする。

4 製造間接費実際発生額 2,870,000円

実際直接作業時間 3,150時間

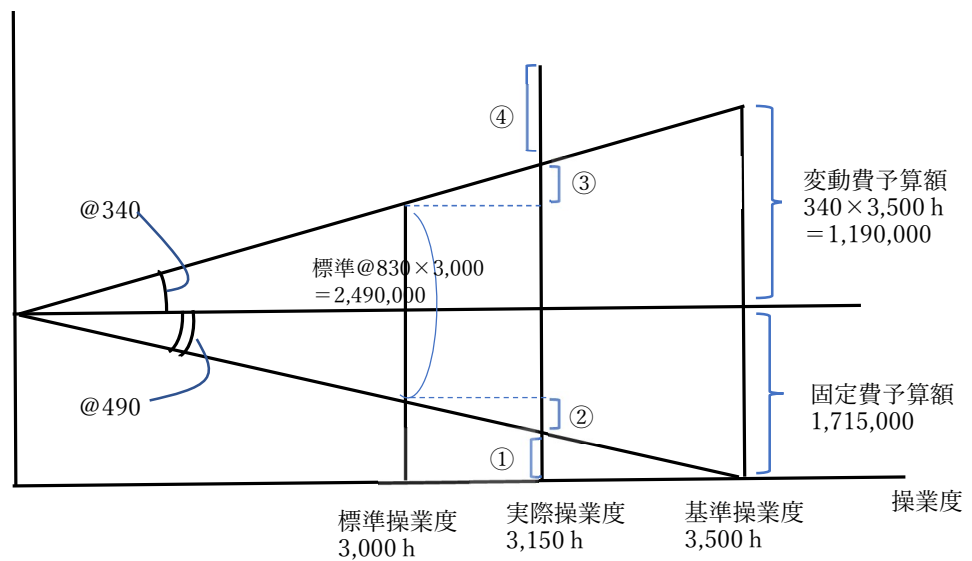
(解答)

仕掛品

材料 600 個 労務・間接 200 個	材料 3,000 個 労務・間接 3,000 個
材料 2,700 個 労務・間接 3,000 個	材料 300 個 労務・間接 200 個

※本問は製造間接費に関する問題なので、「間接」の値のみを uses。

製造間接費



操業度差異 (①) : @490 円×350 h = 171,500 円 (不利差異)

能率差異 (②+③) = @490×150 h + @340×150 h = 124,500 円 (不利差異)

予算差異 (④) 2,870,000 - (2,490,000 + 171,500 + 124,500) = 84,000 円 (不利差異)